

長良川 × 探究

岐阜県
長良川
上・中流域



長良川で生きる野生の起業家たちから
「しなやかで、たくましい」在り方生き方を学ぶ



Special Thanks

- 野生の起業家たち (共著)
- 元立 陽一郎氏 (岐阜)
 - 河合 幹子氏 (岐阜)
 - 千田 智晴氏 (岐阜)
 - 辻 真一氏 (岐阜)
 - 平工 勝太郎氏 (岐阜)
 - 平野 賢生氏 (岐阜)
 - 松久 恭子氏 (岐阜)
 - 猪俣 直斗氏 (岐阜)
 - 中田 大介氏 (岐阜)
 - 山下 寿氏 (岐阜)
 - 山本 聖子氏 (岐阜)
 - 吉田 和弘氏 (岐阜)

長良川流域SDGs教育旅行ワークブック 長良川×探究

長良川で生きる野生の起業家たちから「しなやかで、たくましい」在り方生き方を学ぶ

初版発行 2023年10月
発行 長良川流域観光推進協議会(岐阜県、岐阜市、関市、美濃市、郡上市)
企画・制作 地域連携DMO NPO法人ORGAN、株式会社トモノカイ
お問合せ NPO法人ORGAN 〒500-8009 岐阜県岐阜市湊町45
Tel 058-269-3858 Email: info@onpaku.asia

本書の企画は、国連、その職員または加盟国の理解を安易するものではありません。
国連の「持続可能な開発目標」については、ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>
本書の全部または一部を無断で複製・改題することは、著作権法に基づき禁じられています。
本書の解説書・指導書・ワークブック並びにこれに関するものの無断発行を禁じます。

長良川流域
SDGs教育旅行ワークブック



はじめに
学びのフィールドとしての長良川

これから一緒に
 長良川流域について学ぼう！

日本三大清流の一つ、長良川。
 岐阜県北西部、白山山系・大日ヶ岳に源を発し、伊勢湾へと流れる全長166kmに及ぶこの流域には、約83万人の人々が川とともに暮らす喜びを、他に類を見ない多様な川文化が継いでいます。

ユネスコ無形文化遺産に登録されている郡上おどりで有名な郡上市や、同じくユネスコ無形文化遺産に登録されている本美濃紙の手すき技術が受け継がれている美濃市、世界三大刃物産地の一つである関市、日本遺産にも認定された信長公のおもてなしが息づく岐阜市。

豊かな自然に恵まれ、独自の文化が花開いた流域には「大きな物語」が背景に横たわる川とともに暮らす人々の喜びが垣間見られます。

そして今、清流に棲む“鮎”を象徴とする豊かな生態系とそれを取り巻く人々の営みが「世界農業遺産」や「世界の持続可能な観光地100選」に認定されるなど、流域が多様な学びや気づきにあふれたフィールドとして注目を集めています。

あなたが描きたいのは、どんな未来ですか？
 あなたが守りたいのは、どんな景色ですか？
 川と共に生きる人やかどくまいたくましい人々の暮らしの中に、きっとそのヒントが見つかるはず。

つなごものがあるから、変わっていきな。変わらぬものがあるから、新鮮。ここに物語に、さぶん、と霧で込め旅をしませんか？

もくじ

- p. 2-3 はじめに
- p. 4-5 長良川流域とサステイナブルツーリズム
- p. 6-13 旅マエ学習 流域の4市を知ろう！
- p.14-15 旅マエ学習 もっと旅のイメージを膨らませよう
- p.16-19 旅マエ学習×旅ナカ学習 学びの準備をして旅に出よう
- p.20-23 旅アート学習 旅を振り返ろう！

本書における「長良川流域」
 本書における「長良川流域」とは森林資源や川の恵み、水理を背景に共通の歴史・文化を結いできた「岐阜市」「関市」「美濃市」「郡上市」の4市を指しています。今なお流域に暮らし、伝統工芸や川漁などの生業を未来につなぐ取り組みをしている「野生の鮎屋敷」を訪れ、その生き生きと触れることで「SDGs」や「キャリア」について実質的に学ぶことができるエリアです。

美しい水が生き出す「美濃和紙」が自慢

美濃市 4100

自動車 名古屋～約45分 岐阜～約40分
 電車 岐阜～約60分
 ※美濃和紙は4市だつの上がる町だ

川で選ばれる材料は、工芸や商業が栄え、歴々の舞台に

岐阜市 4000

自動車 名古屋～約40分
 電車 名古屋～約20分
 ※岐阜城・長良川博物館・岐阜和紙・岐阜産だま

郡上市 4000

自動車 名古屋～約70-90分 岐阜～約60-80分
 電車 岐阜～約2時間10分
 ※山と川のレジャー、お土産・お祭りなど

関市 4000

自動車 名古屋～約40分 岐阜～約30分
 電車 岐阜～約60分
 ※関の刃物・小瀬川、お土産など

美濃市 4100

自動車 名古屋～約45分 岐阜～約40分
 電車 岐阜～約60分
 ※美濃和紙は4市だつの上がる町だ

岐阜市 4000

自動車 名古屋～約40分
 電車 名古屋～約20分
 ※岐阜城・長良川博物館・岐阜和紙・岐阜産だま

Callouts: 刀鍛冶のまちから刃物のブランド都市へ、美しい水が生き出す「美濃和紙」が自慢、み土産やリゲルズも楽しめ、自然の魅力！

長良川流域のSDGs、サステナビリティ



長良川は都市部を流れる川でありながら、流域の人々の暮らしの中で清流が保たれていることにより、鮎をはじめとする生物や自然、伝統文化、食が育まれてきました。川とともに生きる人々の知恵と努力が清流を保全し、そして産業や観光へと発展させるという点が評価され、2021年には「世界の持続可能な観光地100選」*に選出されています。

*「世界の持続可能な観光地100選」とは、サステイナブル・ツーリズムの国際認証機関「Green Destinations」が実施している表彰制度で、持続可能な観光に積極的に取り組む地域を評価し、毎年選出。「TOP100選」は5段階中の最初のステップにあたる。



長良川流域が「世界の持続可能な観光地100選」に選ばれたわけ

1

流域の人々が訪れてきた日本随一の鮎文化

長良川の恵みを象徴するのが清流に棲む鮎たちです。2015年には長良川の水の美しさや生態系、清流域の森林、流域に住まい文化を築いてきた人々の暮らしすべてが「清流長良川の鮎」として世界農業遺産に認定されています。



世界農業遺産 清流長良川の鮎



2

川に親しむ暮らし

独自の水利用法が根付く「水の町」郷土八幡。水運を背景に栄えた美濃市のうだつの上がる町並みや岐阜市の川原町など、流域には川と結びついて発展した町並みが残ります。魚食や地酒など、豊かな食文化も魅力。町の橋を流れる川には漁師だけでなく、遊漁者から水遊びの子どもまで、たくさんの人の姿が見られます。



3

守り伝える伝統技術

上流の山里では清涼な水から和紙が生まれ、中流のまちでは船で運ばれた和紙や竹、木から和傘や提灯が作られました。また、美しい水は対物を染め、染物をするのも役立ちました。流域には、川が訪いだ職人の技が脈々と受け継がれています。



岐阜県とサステイナブル・ツーリズム

地域の文化を尊重し、ありのままを楽しむ旅

岐阜県では「日本の源流に出会う旅」をコンセプトに、サステイナブル・ツーリズム(持続可能な観光)をいち早く推進してきました。

「サステイナブル・ツーリズム」とは、SDGsを意識した旅行の形。経済・社会・環境の問題に対応しながら「訪れる側」と「受け入れる地域」の両方が幸せになることを目指す観光のスタイルです(右図参照)。

いままでの観光(マストツーリズム)では
1. 地域文化に配慮しない建築物や土産物、体験
2. オーバーツーリズムによる汚染・トイレ・ゴミ問題
3. 都会の大手資本が個々地域に還元されない

サステイナブル・ツーリズムでは
1. その土地らしい暮らし・文化を体験する過ごし方
2. 地域の環境を大切に
3. 地元の人や物元の特産品にお金を使い、地元の雇用や自然・文化を守る

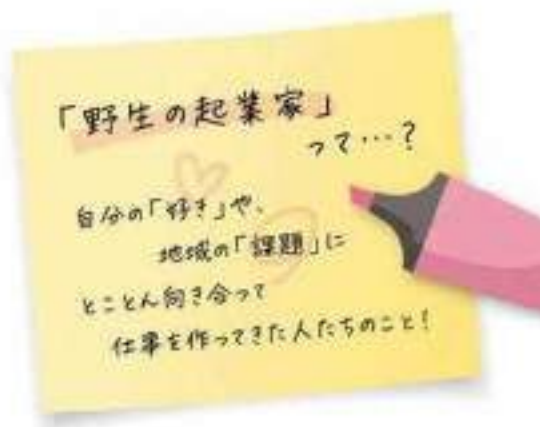


長良川だからできること

「野生の起業家」にSDGsや生き方を学ぶ

川に寄り添い、川の恵みを十二分に活かしながら生活や文化を紡いできた長良川流域に生きる人々。資源を上手に活用する「しなやかさ」や、時に荒々しい表情を見せる川と向き合い続ける「たくましさ」は、今を生きる野生の起業家の中に連続と受け継がれています。伝統の継承や資源の保全など、流域のサステナビリティの担い手でもある彼らがどのように現在のキャリアを築いてきたのか。

「SDGs」と「キャリア形成」の両面から探ってみましょう。



しなやかさ

例えばこんなところ

- 課題を引き受け、イノベーションのためのバネに変える
- 実直に丁寧に取り組む
- 強引さではなく、誠実さで地域にとけ込む
- 止まったり、方向転換したりしても歩み続ける

たくましさ

例えばこんなところ

- 伝統を進化させる、継承していくパッションをもつ
- 失敗してもめげないで挑戦し続ける
- 時には周りの反対を押し切りながらも進める
- 地域や伝統、文化への愛を貫く



皆さんには、何か夢中になれていることはありますか? 将来のキャリアについて考えていることはありますか?

どんな学校へ進学するか、どんな仕事に就きたいか、どんな事業を始めたいか、将来を考えると、何をすることも基本となるのは自分です。だからこそ、今のうちから自分自身の想いを育てていく必要があります。自分自身のやりたいことや好きなことを見つかったら、そこから行動に移していくことができます。

今この流域で輝いている人たちが、地域に関わる中でどのようにヒントを見つけ、どのように「できるかも」の種を花開かせていったのか。「自分の好きなこと」と「地域の課題解決」や「持続可能性」が結びついた生き方は、これからの時代のキャリア形成について考えるためのヒントになるかもしれません。



どんな出会いがあるだろうか? 野生の起業家を一部紹介!

岐阜 Gifu



戦国武将の織田信長もゆかりの地だった岐阜の長良川の橋脚。



遠くからも見える、金華山の頂上にある岐阜城の天守閣。



繊細な軸が特徴の提灯の、二大産地の一つです。

都市と山や川の自然が共存。歴史や工芸めぐりも楽しい

日本の中央部、濃尾平野の北端にある岐阜市は、名古屋から電車で20分。市街地ですが、山や川が身近に存在します。戦国時代「美濃(岐阜)を制する者は天下を制す」と言われたほどの要所で、織田信長は一時期、岐阜を拠点としてまちづくりを行いました。金華山(きんかざん)上の岐阜城からの見晴らしがよく、信長もここから天下統一の夢を望んだのかもしれない。

また、長良川が金華山(きんかざん)のふもとで大きく蛇行するので、川湊(がしまた)作りやすく、物流の拠点でもあった岐阜。上流からの和紙や木材を使って提灯・和傘・うちわの工芸が発展し、名古屋などの都市に出荷されました。



サステイナブル・ツーリズム体験情報



日本一の提灯の産地で、伝統を活かした体験観光について学ぼう

川が紡いだ岐阜の伝統をまるっと体験 提灯職人が考えるおもてなしとは？

- 体験の流れ
 - 提灯職人、観光ガイド、船頭観光船船頭の山下尊さんによるトーク
 - 提灯の絵付け体験
 - 高の川渡・川原町まちあるき
- 学びのポイント
 - ▶ 岐阜提灯や長良川の舟運について学ぼう
 - ▶ 伝統や文化を「楽しく伝える」方法について考えよう
- マップ
 - 岐阜提灯
 - 長良川舟運
 - 川原町
 - 美濃国戦国案内

近隣SPOT

川と城下町のつながりを学ぶ—— 岐阜城 川原町の古い町並み ぎふ長良川の橋脚 長良川うかいミュージアム など



どんなことをしているの？ 川漁師の仕事から地域の未来を考えよう

木造和船と伝統漁法を操る若手川漁師の清流文化を次代につなぐ挑戦

- 体験の流れ
 - 長良川最年少漁師・平工顕太郎さんのSDGsトーク & 川漁見学
 - 長良川うかいミュージアム訪問
- 学びのポイント
 - ▶ 長良川の生物多様性や川漁師の仕事について学ぼう
 - ▶ 「資源の保全と活用」という観点からSDGsについて考えよう
- マップ
 - 川漁師
 - ゆいのふね
 - 6次産業化
 - ぎふ長良川の橋脚

野生の起業家インタビュー



川漁師・川漁体験企画 / 岐阜県岐阜市
平工 顕太郎 さん

長良川とともに育った平工顕太郎さんは、幼い頃から長良川や自然、環境を心から大切に感じてきました。大学では、アユを中心とした海洋生物について研究していたとのこと。

その中で平工さんが衝撃を受けたのは、長良川の漁師に65歳以下の方が一人もいないという事実を知ったとき。これを機に長良川の名産である鮎(あゆ)を広めたいと、平工さんは川漁師になる道を選びました。ただでさえ条件や仕事内容が厳しい川漁師を、ゼロから目指すことは前例のない挑戦。周りの人々に止められるなどの逆境にもめげず、試行錯誤を繰り返しながら一つ一つ学び、ついに川漁師として一本立ちしました。

「自分に正直に生きていく」という信念のもと、今では鮎の直売システムの確立や、様々な鮎料理を楽しめる飲食店の経営、さらには川漁師の船に乗れる旅客船「ゆいのふね」の立案から運営まで行うなど、これまでにない新しい川漁師のあり方を日々実現し続けています。



岐阜市エコツアー「岐阜川の清流」体験
お申し込みはこちら

インタビュー 掲載日

自分に、
相手に、
地球に
正直に生きる



岐阜和傘職人 / 岐阜県岐阜市
河合 幹子 さん

岐阜市の伝統工芸品、岐阜和傘は「開いて花、閉じて竹」と表されるその美しさが特徴です。

和傘問屋の家系に生まれた河合幹子さんは、一般企業や税理士事務所で勤務を経たのち、先駆っていく業界に飛び込み、和傘の製造販売を手がける「今日和(かさびより)」を立ち上げました。

オリジナリティあふれる華やかなデザインを手がける和傘職人でもある河合さん。明治期に作られた傘に着想を得た樹と桜の花びらのような「桜和傘」には多くの熱い視線が集まりました。

職人になりたての頃は新聞配達をしながら、空いている時間で制作に打ち込む日々。「何事もコツコツが大切」と語る河合さんは、工程一つ一つに手のかかる和傘づくりにも「選んだ道を正解にしていく」という気概をもって、失敗を恐れずに進み続けました。今では岐阜市を代表する和傘職人の一人として、大切な伝統を後世に伝えていきます。



岐阜和傘問屋 中川和傘問屋
お問い合わせはこちら

インタビュー 掲載日

正解の道を
選ぶのではなく、
選んだ道を
正解にしていく



「開いて花、閉じて竹」。美しい岐阜和傘を全国に広めた火付け役

関 Seki

水・炭・土が育む刀づくり。世界的な刃物都市に潜入

鎌倉時代に始まった、関の刀鍛冶文化。関には日本刀を鍛えるために必要な水、炉の松炭、焼き入れの際に刀に塗る焼刃土が揃い、川から原料や商品を運ぶこともできるとあって、多くの刀匠が集まりました。現在でも、名工の名と技を代々受け継ぐ刀匠が活躍しています。

現在の関市は、ドイツのゾーリンゲン、イギリスのシェフィールドとともに世界三大刃物産地とされており、家庭用刃物で国内トップシェアを誇ります。包丁、爪切り、はさみ、カミソリなど、「関の刃物」は高品質の代名詞。機能だけでなく、デザイン性にも優れた刃物が注目されています。



山からのアケボノ湧き水は、輝かしい見事な透明度！



名刀の産地であり、本物の日本刀は物産品！



豊富な水や炭があるからこそ、香ばしく焼く「うなづき」が名物の一つ。

「A」 サステイナブル・ツーリズム体験情報



「伝統」って面白いものですか？ 職匠さんのお仕事の“奇”を覗こう

鶏とともに暮らして1300年！ 伝統を背負う鶏匠の、軽やかな日常

- 体験の流れ
 - 足立家18代目当主・陽一郎さんの鶏匠トーク
 - 鶏との触れ合いと小瀬鶏飼観察

- 学びのポイント
 - ▶ 小瀬鶏飼について学ぼう
 - ▶ 「変わりゆく環境、時代の中で伝統を受け継ぐこと」について考えよう

- キーワード
 - 鶏飼(小瀬鶏飼) □ 鶏匠
 - 宮内庁式部職 □ 甘藷餅

近隣SPOT

刃物で栄えた過去と現在を学ぶ—— □ 関鍛冶伝承館・岐阜県刃物会館・せきてらす □ フェザーミュージアム □ 関善光寺 など



体験も市場も新しく創る！ 老舗刃物店3代目の、あふれる「チャレンジ精神」に触れよう

守るべきものがあるから未来へ投資 世界から人が集まる刃物屋さんの作り方

- 体験の流れ
 - 刃物屋三秀・吉田和弘さんによる刃物トーク
 - 25・26代刀匠藤原崇房による鍛冶実演と体験

- 学びのポイント
 - ▶ 刀鍛冶や関の刃物産業について学ぼう
 - ▶ 伝統に軸足を置いた事業開発や市場創出について考えよう

- キーワード
 - 関の刃物 □ 関刃物ミュージアム
 - 関鍛冶伝承館 □ インバウンド観光

野生の起業家インタビュー



小瀬鶏飼職匠 / 岐阜県関市
あだち まついちろう
足立 陽一郎 さん

全国で9名しかいない「宮内庁式部職職匠」は、皇室に献上する特別な職匠です。そのうちの一人である足立陽一郎さんは、室町時代から代々続く小瀬鶏飼の名家に生まれ、中学生の頃から船頭として、大人たちに連れて川に出ていました。

鶏飼の方法については、やり方を教わったわけではなく、すべて父親から先達の背中を見て自ら学んできたとのこと。足立さんは、何事も誰かから教えてもらうことを待つのではなく、「自分でものにしていく」意識が大切だと語ります。

「時代は変われど、代々続く職匠の歴史は変わらない」。名家の伝統を継ぐことには、責任やプライドがつかまとうもの。また、周りを取り巻く環境や時代の変化も激しいため、日々不安もつきまといまいます。だからこそ足立さんはむしろ前向きに、日々新しさを取り入れながら伝統と共に生きていくことで、今日も小瀬鶏飼の伝統を守り続けています。



岐阜県刃物ミュージアム / 関市

背中を見せ、学び、自分でものにしていく



“グローバル”な視点で関の刃物を世界へ、そして次世代へ



刃物問屋代表 / 岐阜県関市
よしだ さとし
吉田 和弘 さん

関市を代表する刃物問屋「刃物屋三秀」。その3代目店主を務める吉田和弘さんは、東京で大学進学、広告代理店に就職したのち、家業を継ぐ形で関市に戻ってきました。

しかし、「ただ家業を継ぐだけでは、ずるずると時だけが流れてしまう」。継承者としての課題を感じた吉田さんは、ともすると消えてしまいうような関の刃物文化について、「何を新しく、どうつなげていくか」をひたすらに追求し続けてきました。

まずは2005年の愛知万博開催に先駆けてアジア諸国を中心とした海外誘客から始め、その後には観光客や子どもたちが刃物により親しめるよう「関刃物ミュージアム」を自己出資で設立するなど、より多くの人々に刃物の魅力を伝えるべく東奔西走します。

前例のないことでも恐れずに挑んできた吉田さん。現在も「やりたいことには、どんどんチャレンジしてみることを」掲げ、目先の利益にとらわれることなく、持続可能な未来に期待を込めて奔走中です。



関刃物ミュージアム / 関市

やりたいことには、どんどんチャレンジ！



美濃 Mino

丹波や作里の種や重みで美しい和紙が生まれます。



伝統の町並みで佇みながら和紙の魅力を学ぶ。

美しい水から生まれた、 伝統の和紙のまちへ

日本三大和紙の一つ、美濃和紙が作られている美濃市は、長良川中流と支流の板取川が交わるエリアです。古くから美しい水と良質な原料に恵まれ、縦横に紙の繊維が絡む独特な製法によってムラなく薄く、柔らかくて丈夫な和紙が作られてきました。その歴史は長く、奈良の正倉院には1300年以上前の美濃の国の戸籍用紙があります。また、美濃和紙は障子紙や照明、和傘などの日用品に使われるほか、耐久性の高さから、国内外で絵画の修復にも使われています。

和紙産業で栄えた古い商家のまち「うだつの上がる町並み」では、和紙小物のお店巡りや、美濃和紙を使ったあかりアートが楽しめます。



「A」 サステイナブル・ツーリズム体験情報



和紙職人の世界にふれ、持続可能なものづくりの可能性を考えよう

和紙そのものを作品に。 和紙づくりから学ぶ、伝統の進化

- 体験の要約**
- ①和紙職人・千田崇統さんの工房見学と和紙アートまみれの宿「warabee Land」でのトーク
 - ②「美濃和紙の里会館」で手造り和紙の体験

- 学びのポイント**
- ▶「美濃和紙」の伝統や技を学ぶ
 - ▶「伝統を活かした新しいナリワイ」について考えよう

- キーワード**
- ワラビーランド 美濃和紙
 - 美濃和紙の里会館 無形文化遺産

近隣SPOT

和紙を軸に、伝統や歴史、アートを学ぶ—— 田井家住宅・美濃史料館 美濃和紙あかりアート館 美濃和紙の里会館 など

野生の起業家インタビュー



手造り和紙職人 / 岐阜県美濃市

名刺 大のり
千田 崇統 さん

美濃市の和紙職人、千田崇統さん。各務原市で生まれ、大学卒業後には世界各地を訪れました。そこで改めて感じたのは、故郷の川がとにかく綺麗だということ。和紙職人になるのも自然な流れでした。

「白い和紙は美しい。でも、そればかり並べても美濃和紙の魅力は伝わらないのではないか？」和紙は、日常に使われてこそ真価を発揮します。千田さんは、誰が、何のために使うのかも考えながら働き、実際に使う人が喜ぶことが大事だと感じ、美濃和紙の魅力を届けるべく様々な取り組みを始めました。古民家を改装した宿泊施設「warabee Land」では、床、壁、カーテンに至るまで、千田さんが制作した様々な色や素材の和紙が使われています。

独自の活動の原動力には、高校生時代の「背伸び」がありました。少し大人と感じるような自分の知らない世界に一步踏み出すと、一気に目の前が広がってやれることが増える——現在でも、それを自分の根底に感じているそうです。



和紙の魅力を伝えるために、美濃市で和紙の魅力を発信する。

インタビュー要約

背伸びをして、知らない世界に飛び込もう



和紙を糸に加工して新世界へ。老舗からの船出



美濃和紙加賀屋 店主 / 岐阜県美濃市

まつお ぎょうこ
松久 恭子 さん

和紙卸問屋、松久永助紙店で5代目の店主を務める松久恭子さん。もともと京都でメーカーに勤めていた松久さんは、家業を継ぐために美濃市に帰ってきました。同店は問屋としての役割に留まらず、和紙を通じてできた「紙糸」をはじめとして、美濃和紙を活用した雑貨の企画・開発なども行っています。

特に注目すべきは、紙糸で作られたオリジナルの靴下やタオル。そのデザイン性はもちろんのこと、和紙だからこそ実現できる優れた吸水性も評価されており、今や根強いファンがいるほどの人気商品だそう。有名ブランドとのコラボも実現するなど、日々和紙の新たな可能性が切り拓かれています。

明治9年の創業以来、地域の方からも根強い信頼を得ながら続いてきた松久永助紙店。「和紙といえば美濃」と世界に名を馳せる未来を目指して、今日も松久さんは美濃和紙の新しい価値を追求しています。



和紙の魅力を伝えるために、美濃市で和紙の魅力を発信する。

インタビュー要約

まずは色々なことに触れてみる



郡上 Gujo



誰でも参加できる郡上おどり、最初は見よう見まねでOK!

山の登山、夏の川遊び、アウトドアの楽しさ

水と森と人が隣り合う、川の源流は独自文化の宝庫

夏に30夜以上開催される「郡上おどり」。日本一のロングラン盆踊りです。なかでも4夜続けて踊り明かす「徹夜おどり」で熱気は最高潮。郡上はそこかしこで山からのおいしい水が湧き出る、水のまち。下流のことを考えて、生活の中で水を汚さない知恵が生きています。周囲の山の恵みは、ジビエや木材だけではなく、山の落ち葉の栄養分が川に流れ込み、川や海の魚たちを育てます。それを知る漁師たちは、郡上まで山を守る活動にやっけてきます。自然豊かな地形を活かし、スキーやラフティング、観光牧場などのアウトドア体験も楽しめます。



「A」サステイナブル・ツーリズム体験情報



山麓の町は起業家のゆりかご。水とおどりの城下町で、できるかも?の種を見つけよう

「好き」を極めて仕事を作る! 郡上八幡の歴史と"小商い"を巡る町並みツアー

- 体験の流れ**
 - 1 下駄職人・諸橋有斗さんの店舗で実物の踊り下駄に触れる
 - 2 郡上八幡の町並み散策 & 郡上おどり体験
- 学びのポイント**
 - ▶ 郡上八幡の町並みや郡上おどりの歴史を学ぼう
 - ▶ 地域の文化や生活に寄り添った生業づくりについて考えよう
- キーワード**
 - 郡上八幡 郡上おどり
 - 小商い

近隣SPOT

山と川に親しむ暮らし—— 郡上八幡博物館 郡上八幡城 清流長良川あゆパーク ひるがの高原 ラフティング体験 など



遊ぶ=学ぶ=暮らす=働く。イマドキ猟師の働き方を体感しよう!

多面的な活動で里山を保全! 「半猟半X」で里山の資源と魅力を最大化せよ

- 体験の流れ**
 - 1 現役猟師による里山保全と狩猟トーク
 - 2 けもの道トレッキング&フナ狩猟体験(園&銃)
 - 3 鹿の解体〜ジビエBBQ
- 学びのポイント**
 - ▶ 狩猟や里山保全について学ぼう
 - ▶ 複数のスキルやキャリアを活かした働き方について考えよう
- キーワード**
 - 狩猟 猪鹿庁
 - 里山保全 複業

野生の起業家インタビュー

原料から岐阜県産。こだわりが重なる現代のおどり下駄



下駄職人/岐阜県郡上市 諸橋 有斗 さん

ユネスコ無形文化遺産「黒川踊り」の一つとして登録されている伝統行事「郡上おどり」で踊られる「おどり下駄」。踊りに参加する観光客にも気軽に下駄に親しんでほしいと、洋服にも合わせられる現代的なデザインで展開するのが「郡上木履(くじょうもくり)」の諸橋有斗さんです。諸橋さんは、子どもの頃から好きだったものづくりを仕事にすべく、岐阜県立森林文化アカデミーで木工を学んだのち、郡上市に移住し起業しました。

諸橋さんの作る下駄は「メイドイン岐阜」。原料のヒノキから岐阜県内のみを使用することで、地域の林業発展にも寄与しています。また、可愛らしい身振りのデザインは、岐阜のデザイナーによるものや、郡上の伝統であるシルクスクリーンや藍染などの技法が使われており、こだわりが表れています。

諸橋さんの大切にしている「自分のやりたいことや、好きなことを突き詰めること」が唯一無二の下駄の制作につながり、郡上の伝統を守り続けています。



郡上八幡・岐阜県郡上市 下駄職人 諸橋有斗さん

自分のやりたいことや、好きなことを突き詰めること



猟師・狩猟講座運営/岐阜県郡上市 安田 大介 さん

実は郡上市は、イノシシの日本三大産地の一つであり、狩猟文化が根付く地域です。一方、狩猟人口の減少をはじめ、課題も年々大きくなっています。そんな中、より多くの方に狩猟やジビエに親しんでもらうための体験を中心に様々な取り組みを行っているのが里山保全組織「猪鹿庁(いのしかちょう)」です。

代表の安田大介さんは、元々はIT企業に勤務していましたが、どこか心が満たされない日々を送っていました。趣味の川下りを続ける中、長良川のもつ別格の美しさに魅了されたのもこの頃。改めて人生を考え直したときに「自然にもっと関わりたい」という願望に気づき、郡上市への移住を決めました。

「好きなことに貪欲に」いることを大切にしながら、夢中になれることや興味のあることという、点と点が線につながっていく感覚を覚えたという安田さん。「いずれは、狩猟を釣りぐらい身近なものに」という夢を胸に、今も様々な狩猟の可能性を探り続けています。



郡上八幡・岐阜県郡上市 狩猟講座講師 安田大介さん

好きなことに貪欲に

IT業界からの転身。郡上の狩猟文化を守り広める「猪鹿庁」代表へ

長良川流域のサステイナブルなモデルコース

4つの市を巡ることで、川のつながりが育んだ長良川流域のサステナビリティをより深く体感できます。流域のストーリーを読み解く切り口の1つとして、各市を横断したモデルコースを少しだけご紹介します！旅のテーマやコースを考えるとときの参考にしても構いません。

A. 当地情緒満載！暮らしの知恵にうなる町並み散歩

1日目

- 10:00-12:30 **郡上市** 郡上八幡の町並み **地図**
下駄籠人トーク
+ 町並み散策 **体験**
12:30 昼食 (郡上市内)
- 14:00-16:30 **郡上市** うだつの上がる町並み **地図**
古民家リノベーショントーク
+ 町並み散策 **体験**
宿泊 美濃市内

2日目

- 10:30-12:00 **郡上市** 小瀬朝岡エリア **地図**
鶴田トーク
+ 鶴との触れ合い **体験**
- 食事 鶴の家足立 **地図**
- 14:00-16:00 **岐阜市** 川原町の古い町並み **地図**
提灯付け体験
+ 町並み散策 **体験**

B. 清流育ちの鮎を楽しむ 伝統の川原体験と美食の旅

1日目

- 10:00-11:30 **郡上市** 清流長良川あゆパーク **地図**
長良川システム学習
+ 鮎のつかみ取り体験 **体験**
- 12:30 昼食 美濃観光ヤナ **地図**
- 16:00-17:30 **郡上市** 朝岡屋周辺 **地図**
職匠が暮らす町並みを散策
- 18:00 **岐阜市** びふ長良川の鯉飼観察
- 宿泊 岐阜市内

2日目

- 10:00-11:30 **岐阜市** 長良川うかいミュージアム周辺 **地図**
川漁師トーク
+ 漁船見学 **体験**
- 12:00 **岐阜市** 昼食 川原町茶屋 **地図**

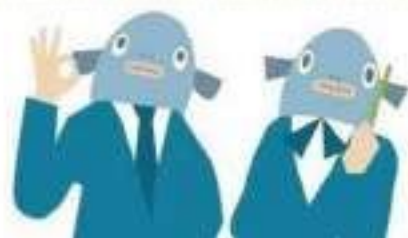
旅の参考にしよう

地域を知る

- 長良川HISTORY
- 岐阜市観光ナビ (岐阜市)
- せきのまど (岐阜市)
- 美濃市観光協会 公式Web (美濃市)
- TABITABI郡上 (郡上市)
- 岐阜の旅ガイド

体験を探す

- びふ長良川めぐるツアーズ
- GUJO Outdoor Experiences
- VISIT岐阜県



まだまだ
います！

長良川流域「野生の起業家」名鑑

旅マエ学習
で旅のイメージを
膨らませよう！



“岐阜愛”が原動力。職人×ガイド×船頭として地域を支える

提灯職人 / 岐阜郡岐阜市
ヤマシタ 草子
山下 草さん



▲岐阜提灯「ジャパニランタン・インダストリー」

岐阜提灯の伝統を守るために職人を志した山下さんが今最も力を入れているのは、提灯制作や絵付けの体験。一見敷居が高い職人仕事に気軽に触れてもらう機会を提供することで、提灯のみならず、より広く深く岐阜の魅力を伝えることができると考えています。さらに、現在は観光ガイドや朝岡屋製鮎の船頭としても活躍中。「とにかく岐阜が好きだから」という思いが岐阜の歴史や伝統を守り、伝える原動力になっています。

インタビュー動画 [見る](#) [共有](#) [お気に入り](#) [お問い合わせ](#)

世界に誇る関の刃物を、こだわりたっぷりのデザインで

プロダクトデザイナー / 岐阜県関市
ヤマモト 愛子
山本 愛子さん



▲nommeシリーズ (津津刃物、paper design)

地元・関市を離れ都会での生活を送っていた山本さん。自然な暮らしに惹かれリターンした後は美濃和紙製品や関の刃物のデザインに携わります。代表作はプロジェクト立ち上げから関わった関市の「津津刃物」の製品群。洗練された意匠の裏にある穏やかな気遣いから「生活の中に心地良さを感じてほしい」という山本さんのモットーがにじみまします。一度都会に出たからこそ気づいた自然の大切さを胸に、今日もこだわりを兼ねたデザインを生み出しています。

インタビュー動画 [見る](#) [共有](#) [お気に入り](#) [お問い合わせ](#)

リスクを恐れず突き進む！ワクワクする挑戦で美濃をもっと元気に

製紙会社代表 / 岐阜県美濃市
ツチ コいし
辻 晃一さん



▲NIFFONA美濃市本店

製紙会社の3代目・辻さんは本業の新たな展開として「うだつの上がる町並み」で世界一の美濃和紙ショップや古民家ホテルを開業するなど積極的なエリア開発を手がけています。一度は故郷を離れベンチャー企業に勤務していた辻さん。衰退する地域への危機感からスタートし「こんな町にしたい」を実現するため、町の中にワクワクを見つけたがら事業を進めてきました。リスクを恐れず挑戦を続けてきたことで、今では彼の周りに多くの人が集まっています。

インタビュー動画 [見る](#) [共有](#) [お気に入り](#) [お問い合わせ](#)

石徹白に伝わる伝統着を復刻、そしてアップデート

ファッションブランド代表 / 岐阜県郡上市
つらの かなり
平野 馨生里さん



▲たつけ (石徹白洋品店)

山間の秘境・石徹白で野良着をベースにしたアパレルを展開する石徹白洋品店。移住後に出会った伝統的な製作業ズボン「たつけ」の無駄のない製法と現代的な感性を掛け合わせたものづくりが特徴です。目指すのは服飾業界の持続可能性を示すこと。染料や糸に至るまで、「土」を感じるものづくりをすること。そして、幸せに暮らし、働ける場所を作ること。悩んだり迷ったりしても立ち戻れる志をもつために、自分自身をどこまで追求することが大切だと平野さんは語ります。

インタビュー動画 [見る](#) [共有](#) [お気に入り](#) [お問い合わせ](#)

参考動画 長良川流域の生業

和傘CASA 公式 YouTube [見る](#) [共有](#) [お気に入り](#) [お問い合わせ](#)

学びの準備をして旅に出よう #1

長良川流域について調べよう

さあ、いよいよ長良川への旅に向けて準備をしましょう！
ここからは、自分たちで長良川流域や野生の起業家に関する情報を
集めながら、現地での体験に備えていきます。



まずは長良川流域に関する全般的な物事や、現地での体験、地域の人に関する情報を、様々な媒体を活用して集めてみましょう。
旅行当日は、野生の起業家から話を伺えたり、様々なサステナビリティを体験できる貴重な機会です。
事前に情報を集めておくことで、当日の理解が深まり、旅をより充実させることができるでしょう。

事前調査 MEMO 長良川流域について

このページの使い方

- ①【旅マエ】長良川流域に関する全般的な物事や、現地での体験、地域の人に関する様々な情報を、インターネットや書籍、パンフレットなどを活用して集め、事前調査 MEMO の欄に書き込みましょう。
- ②【旅ナカ】現地で話を聞きながら旅ナカ MEMO の欄に聞いたことを書き込みましょう。話を聞く中で、新たに気づいたことや疑問に思ったことなどがあれば、それを書いておいてもよいでしょう。



事前調査 MEMO サステイナブル・ツーリズム体験や、野生の起業家について



ここまでの教材で学んできた内容や、旅マエワーク1で集めた情報を踏まえて、気になったことや、もっと知りたいと思ったことをできるだけたくさん書き出しましょう。また、現地では確かめたことや感想を中心にメモをとりましょう。

旅ナカ MEMO まちあるきや訪問での新たな発見や疑問、さらに追求してみたいと思ったことなどの感想を書きましょう。



当日に体験するサステイナブル・ツーリズムのプログラムを記入し、そこで楽しみなことや、現地で確かめたいことをまとめておきましょう。また、現地では体験したことの感想や、実際に確かめられたことなどを中心にメモをとりましょう。

旅ナカ MEMO 現地で体験したことの感想や、事前に書き込んでいたことに対しての新たな気づきなどを書きましょう。

学びの準備をして旅に出よう #2

野生の起業家に話を聞こう

野生の起業家たちは、どのように考え、行動し、今に至っているのでしょうか。現在のキャリアと、それまでの経緯に着目しながら話を聞いてみましょう。



インタビュー シートの使い方

- ①【旅マエ】話を聞く当日に帰え、事前に質問する項目を考えて②の欄を埋めておきましょう。
- ②【旅ナカ】現地です話を聞きながら、【旅ナカMEMO】の欄に聞いたことを書き込みましょう。話を聞く中で、新たに気づいたことや疑問に思ったことなどがあれば、それを書いておいてもよいでしょう。

話を聞く方： _____ 日付： 年 月 日

体験内容： _____

楽しみなこと： _____

1. 仕事について

- ② 行っている仕事内容や取り組みについてなど、仕事に関する質問をしてみましょう。

旅ナカ MEMO

2. なぜ長良川流域？

- ② なぜその仕事や取り組みを長良川流域で行っているのかなどを聞き、彼らのもつ長良川への想いについて探りましょう。

旅ナカ MEMO

3. どう考え、どのように行動に移してきたのか

- ② 彼らが今のキャリアを実現するまでには、どんな経緯があったのでしょうか。思考の過程や、意思を決定して今に至るまでの経緯を聞いてみましょう。

旅ナカ MEMO

4. 野生の起業家のもつ信念や想い

- ② 彼らはどうの信念や想いをもって行動や意思決定をしてきたのでしょうか。大切にしていることについて聞いてみましょう。

旅ナカ MEMO

5. その他

- ② その他気になっていることや、聞いてみたいと思ったことなども書き込んでおきましょう。

旅ナカ MEMO

感想 話を聞いてみて、思ったことや感じたことなどを書いておきましょう。

長良川での体験 ふりかえり

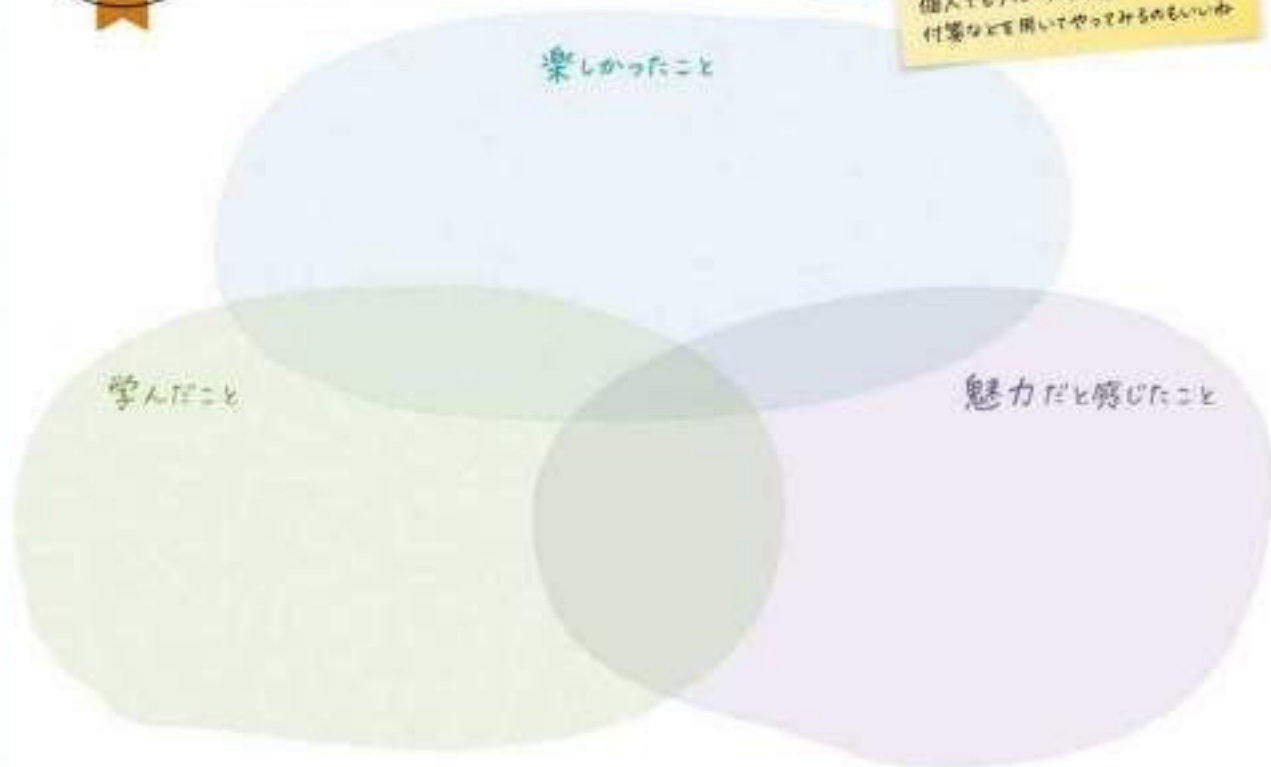
長良川での旅は楽しめましたか？ さっと行く前にはわからなかった様々な気づきや学びもたくさんあったのではないのでしょうか。そんな思い出を忘れないうちに振り返っておきましょう。



3つの観点でふりかえり

長良川での旅全体を思い返し、楽しかったこと・学んだこと・魅力だと感じたことの3つの観点で、振り返ってみましょう。

個人でもグループでもOK！
付箋などを用いてやってみるのもいいわ



サステイナブル・ツーリズム体験のふりかえり

体験したサステイナブル・ツーリズムのプログラムを思い返し、「サステナビリティ」を感じたところはどこだったかを考えてみましょう。p.17～19の現地でのメモを踏まえて、理由とともにまとめてみましょう。

サステナビリティを感じたところ

なぜそう感じたか？

--	--

「人」との出会い ふりかえり #1

p.6～15で紹介されていた野生の起業家たちや、旅ナカで出会った起業家たちといった「人」は、一人ひとりが自分の意思や考えを様々な行動につなげていました。そんな彼らからは、自分自身の今後に活かせる学びが多くあるのではないのでしょうか。ここからは、彼らにフォーカスを当てて旅を振り返ってみましょう。



旅ナカで出会った野生の起業家たちに対して、どんな印象をもちましたか。一言で表してみましょう。

出会った野生の起業家：

どんな印象をもった？

また、印象に残った言葉やエピソードと、その理由も書いてみましょう。

印象に残った言葉や、エピソード：

なぜそう思ったのでしょうか？理由も書いてみましょう。



旅アトワーク3で書いた印象やエピソードを改めて見返して見て、「その裏にはどんな理念や想いがあるだろうか？」のような切り口で自分の考えをまとめてみましょう。

感じたこと／気づき



旅ナカで出会った野生の起業家たちは、①と②のそれぞれに対してどのように向き合っていたのでしょうか。
①自分自身(過去、未来、周りの人々との関わり)との向き合い方 ②長良川(自身に関係深い地域)との向き合い方
自分が感じたままに整理してみましょう。

①自分自身(過去、未来、周りの人々との関わり)に対して

②長良川(自身に関係深い地域)に対して

--	--

「人」との出会い ふりかえり #2



旅アトワーク
6

旅を終えた今、改めて野生の起業家たちの考え方や行動のどんなところに「しなやかさ」や「たくましさ」を感じられたでしょうか。それぞれの観点から、自分なりに整理してみましょう。

しなやかさ

たくましさ

旅アトワーク
7

旅アトワーク6での整理を参考にしながら、改めて自分自身の行動や考え方、物事に対する姿勢などを見つめ直してみましょう。

見つめ直しポイント

野生の起業家の話から、自分も少しはできているか...と思ったこと

野生の起業家の話から、自分に不足しているなと思ったこと

野生の起業家の話から、「ぜひ見習いたい」と思ったこと



「自分」のふりかえり

最後はいよいよ、自分の今後を視野に入れてここまでの学びを振り返ってみましょう。このページに書いたことを実現できるよう、まずは小さな一歩からでも踏み出せるとよいですね。

旅アトワーク
8

これから先のやりたいことや、考えたいこと、進路など皆さんが実現したい未来はどんなものでしょうか。また、そこに向け合うために、自分にはどんな「しなやかさ」「たくましさ」が必要になりそうでしょうか。p.22で行った整理も参考に、考えてみましょう。

自分の今後を見据えてやりたいこと

必要になりそうなしなやかさ

必要になりそうなたくましさ

旅アトワーク
9

旅アトワーク8で書き込んだ【自分の今後を見据えてやりたいこと】の実現に向けて、自分が踏み出す最初の一步となる具体的な行動をここに宣言してみましょう。

- ヒント
- やりたいことを実現するための準備としては、どんなことが考えられそうか？
 - この先の実現に向けて今、自分にできることはなんだろうか？



ワークはここでおしまいです！
おつかれさまでした

長良川での旅を
しっかりと振り返ることができましたか？
野生の起業家との出会いをはじめとする
ここまでの様々な経験には、
きっと皆さんが旅に出る前には
思いもしなかった発見もあったでしょう。

これからは皆さんが主役となって、
人生という名の旅に出る番です。
このワークブックの中には
書ききれなかった思い出も大切に、
ぜひ今回の学びを生かして未来へと
突き進んでいってください。

そしてまた、鮎のように
長良川に帰って来てくださいね。

